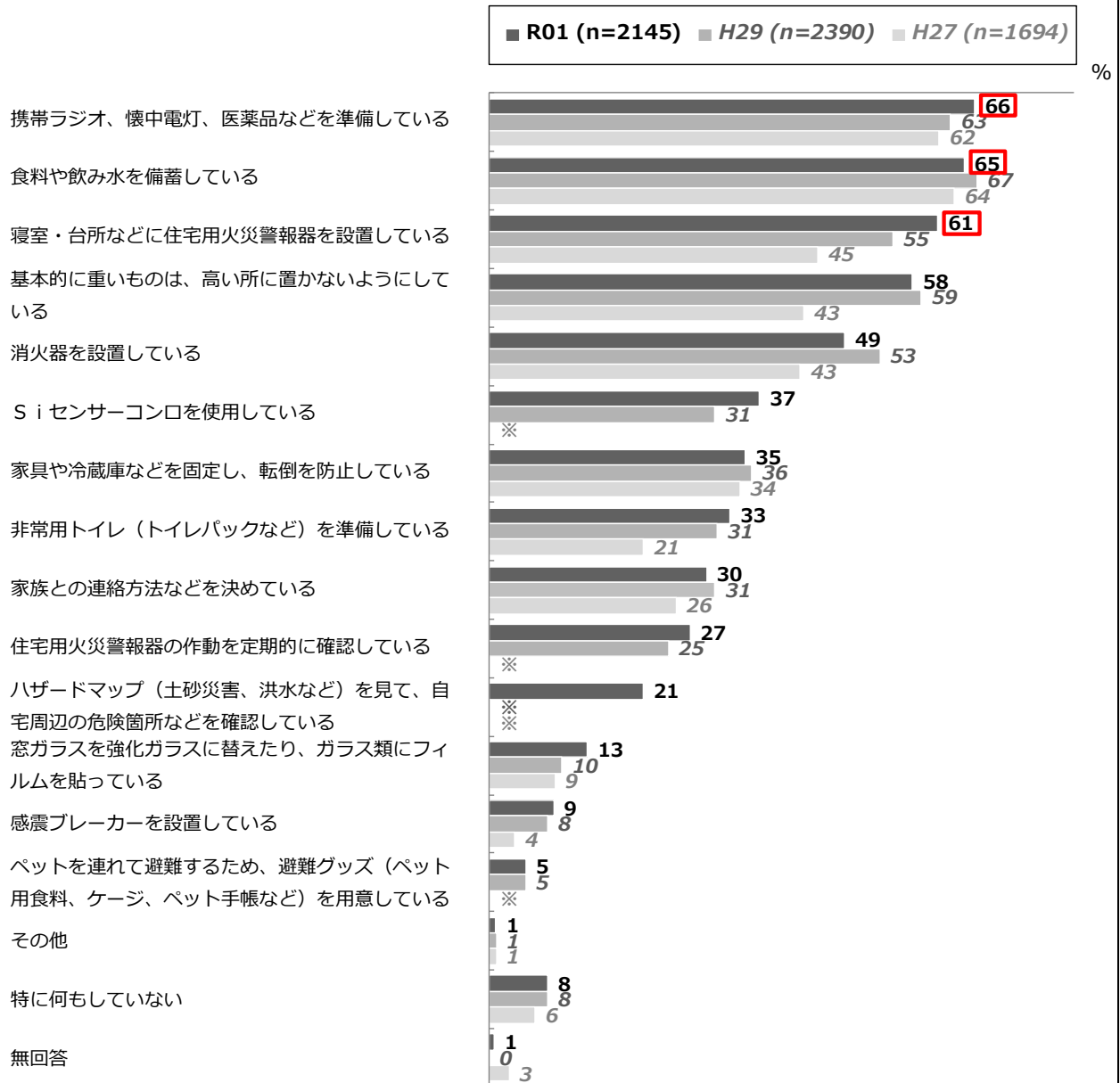


2 災害に備えた対策

(1) 災害への対策

- 家庭における災害対策としては、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(66%)が最も多く、次いで、「食料や飲み水を備蓄している」(65%)、「寝室・台所などに住宅用火災警報器を設置している」(61%)が続いています。
- 前回調査と比較すると、増加しているのは「寝室・台所などに住宅用火災警報器を設置している」、「S iセンサーコンロを使用している」(前回比+6ポイント)、次いで、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」、「窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類にフィルムを貼っている」(同+3ポイント)となり、地震による被害や火災を防ぐ対策が高まっています。

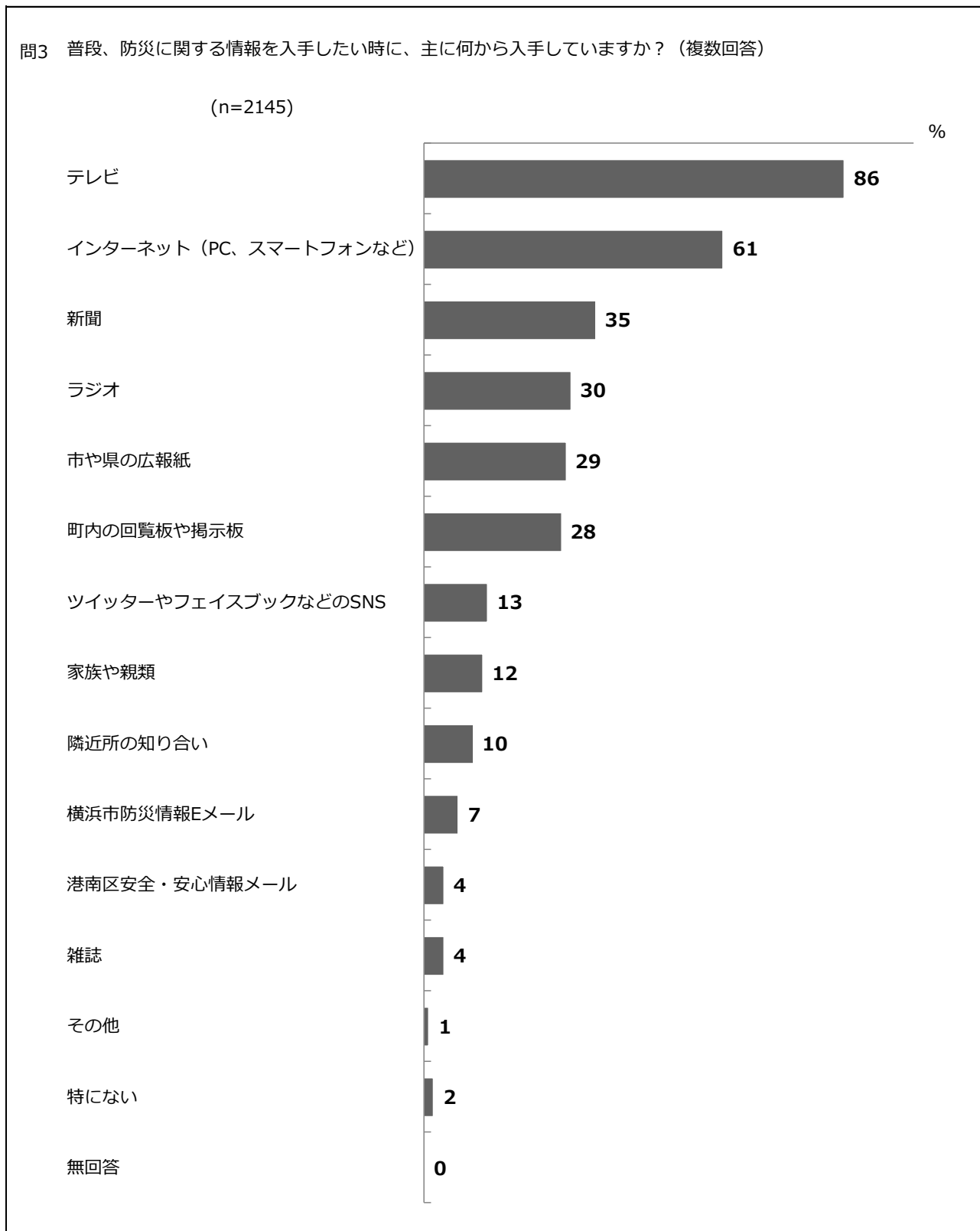
問2 あなたの家では、火災に備えて、どのような対策をとっていますか？（複数回答）



※の項目は聴取を実施せず

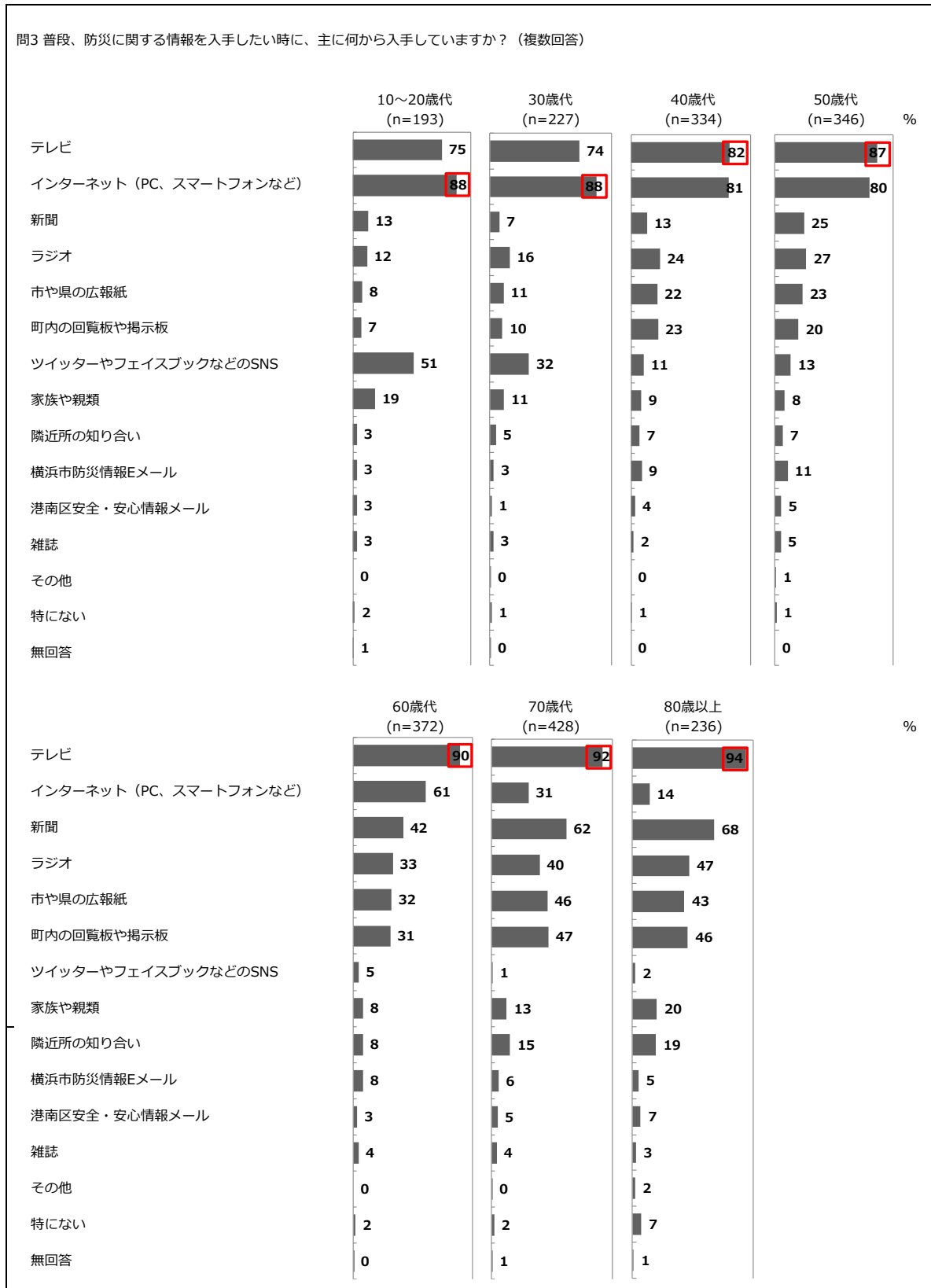
(2) 防災に関する情報の入手手段

- ・ 普段の防災に関する情報の入手手段としては、「テレビ」(86%)の回答が最も多く、次いで、「インターネット(PC、スマートフォンなど)」(61%)と続き、この2つが5割を超える結果となりました。以下、「新聞」(35%)、「ラジオ」(30%)、「市や県の広報紙」(29%)、「町内の回覧板や掲示板」(28%)となりました。



[年代別 防災に関する情報の入手手段]

- 年代別では、10～20歳代及び30歳代は「インターネット（PC、スマートフォンなど）」の回答が最も多く、40歳以上は「テレビ」の回答が最も多くなっています。また「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」の項目は、年齢が高くなるほど回答率が上がる傾向があります。
- 10～20歳代の特徴としては、「ツイッターやフェイスブックなどのSNS」の回答率が他の年代よりも高く、過半数を超える結果となりました。

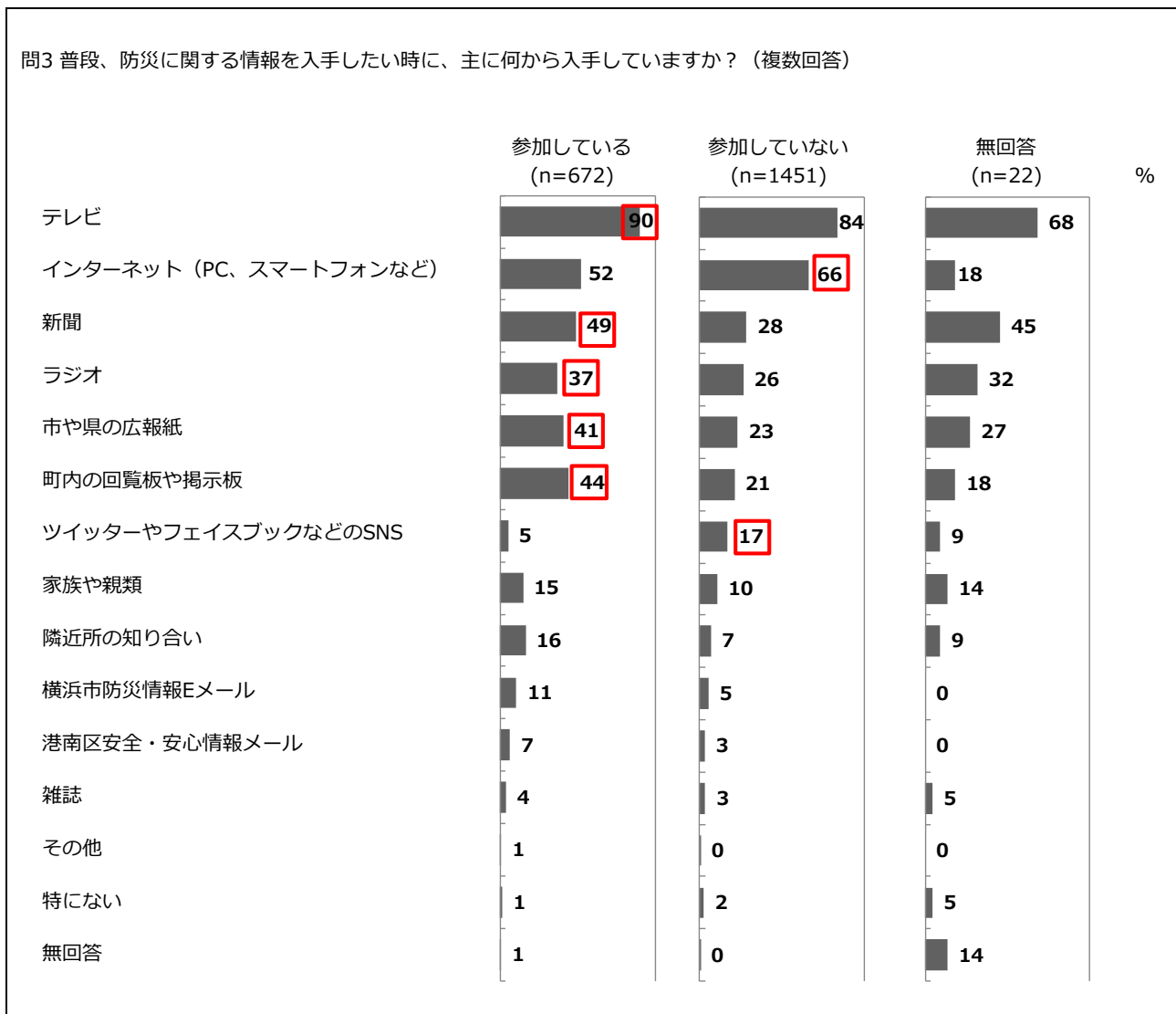


[地域の防災訓練への参加有無別 防災に関する情報の入手手段]

- 地域の防災訓練への参加有無別に防災に関する情報収集をみると、防災訓練へ参加している人*1は参加していない人*2に比べて「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」「市や県の広報紙」、「町内の回覧板や掲示板」の回答率が高く、一方で参加していない人は参加している人に比べて「インターネット（PC、スマートフォンなど）」、「ツイッターやフェイスブックなどのSNS」などの回答率が高くなっています。

*1：問5で「参加している」と回答

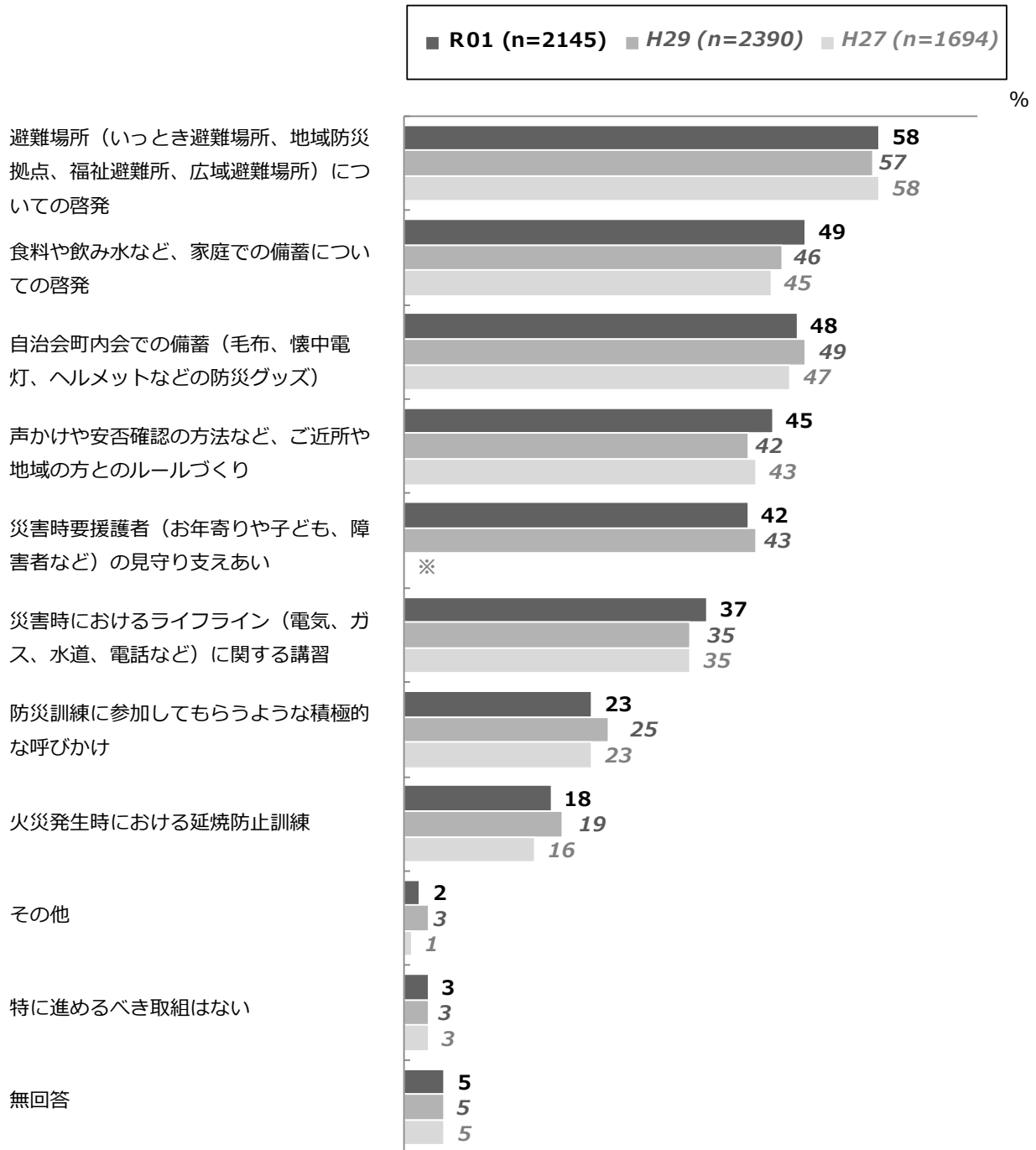
*2：問5で「参加していない」と回答



(3) 災害に備え自治会町内会がすすめるべき取組

- ・最も多いのは「避難場所についての啓発」(58%)で、次いで「食料や飲み水など、家庭での備蓄についての啓発」(49%)、「自治会町内会での備蓄」(48%)となっており、これまでの調査と大きな変化はありません。
- ・避難場所や家庭での備蓄についての啓発等につき、「声かけや安全確認の方法など、ご近所や地域の方とのルールづくり」(45%)や「災害時要援護者の見守り支えあい」(42%)を求める声が多く寄せられており、災害時の共助が自治会町内会で進めるべき取組と考えられています。

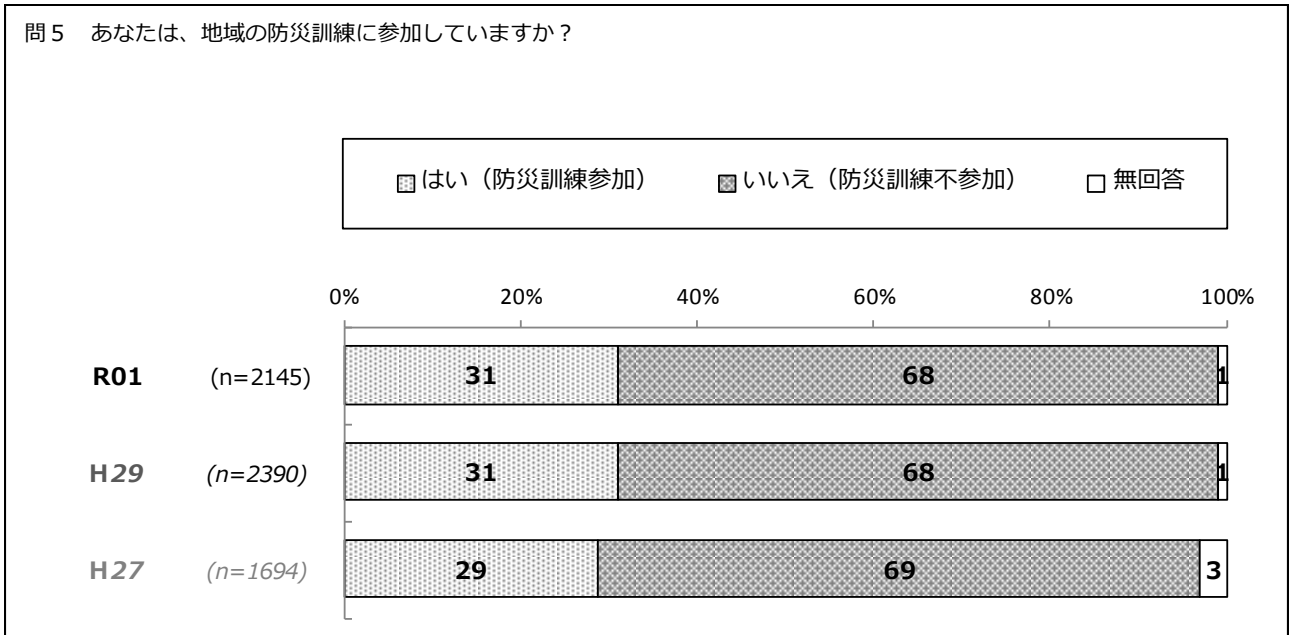
問4 大地震などの災害に備え、今後、自治会町内会がどのような取組を進めるべきだと思いますか？
(複数回答)



※の項目は聴取を実施せず

(4) 地域の防災訓練への参加有無と不参加理由

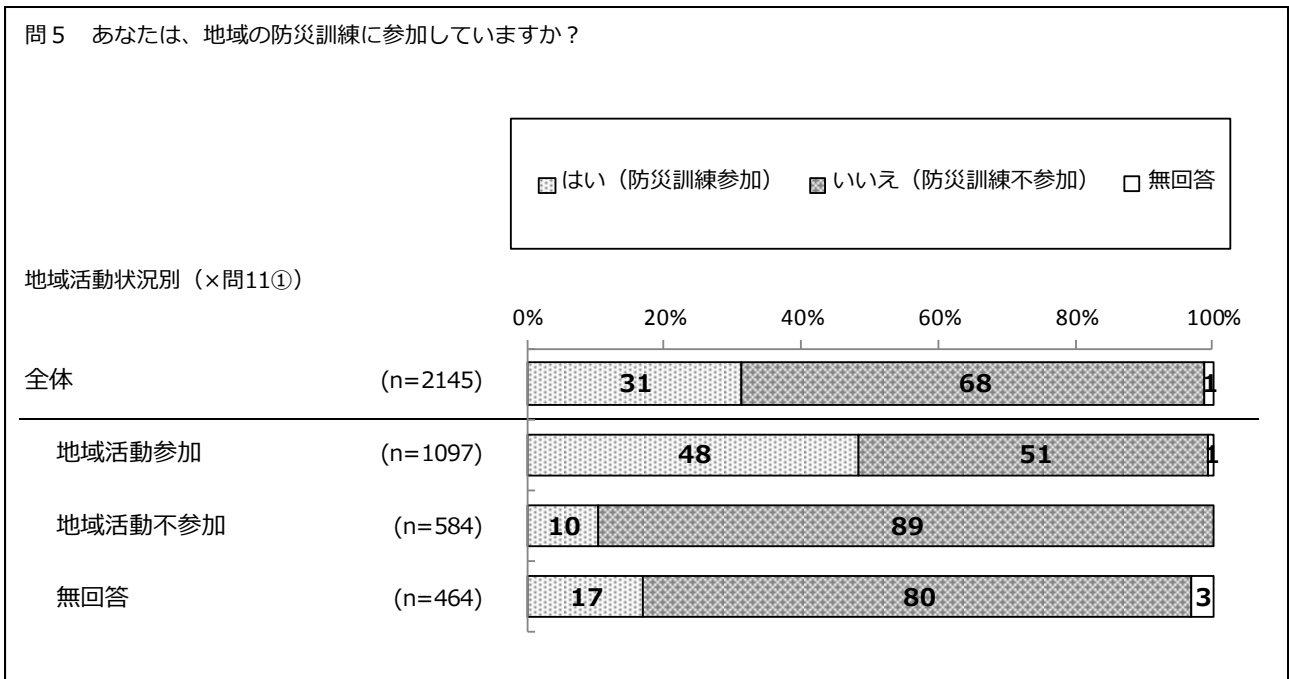
- ・全体の31%が地域の防災訓練に参加しています。前回調査と比較すると、変化はありません。



[地域活動への参加状況別 防災訓練参加状況]

- ・地域活動への参加状況別にみると、地域活動へ参加している人*の地域の防災訓練への参加率は48%で、半数近くが防災訓練に参加しています。
- ・一方で、地域活動へ不参加の人は、防災訓練への参加率は10%と低く、地域活動への参加状況による大きな差があります。

*問11①で1つでも地域活動に参加していると回答した人

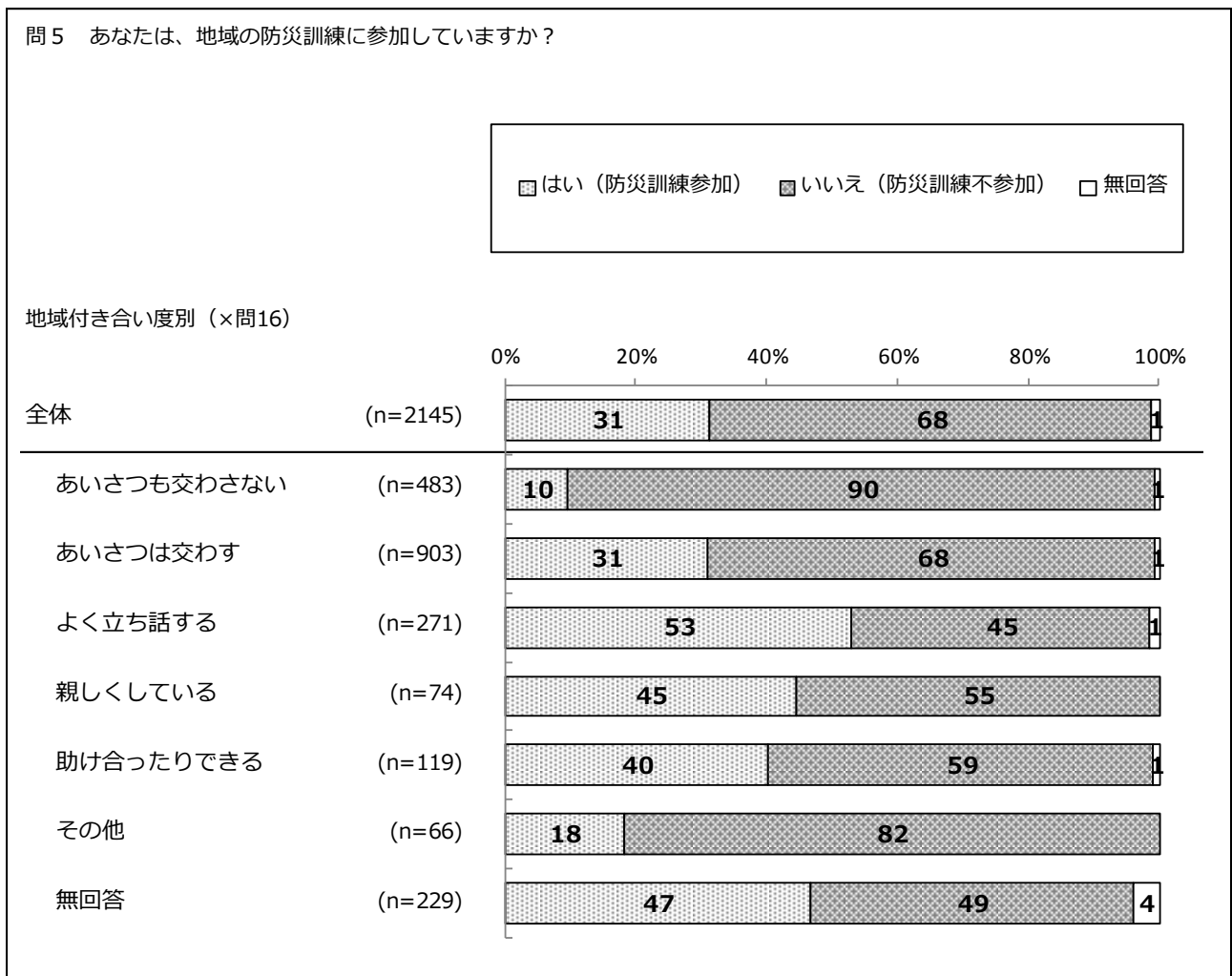


[地域とのつきあい度別 防災訓練参加状況]

- 地域とのつきあい度別にみると、地域とのつきあいのある人*¹では、「はい」という回答が全体よりも高くなっています。特に、「近所には顔なじみが多く、よく立ち話をする」項目を選んだ人は、半数以上の53%が、「はい」と回答し、訓練への参加率が他に比べ高くなっています。
- 一方、地域でのつきあいの少ない人*²は、9割が「いいえ」と回答し、訓練への参加率が低くなっています。

*1：問16で「近所には顔なじみが多く、よく立ち話をする」、「一緒に買い物に行ったり食事をするなど、気が合う人と親しくしている」、「困ったときに相談したり助け合ったりできる人がいる」と回答した人

*2：問16で「顔もよく知らない人が多く、ほとんどあいさつも交わさない」と回答した人



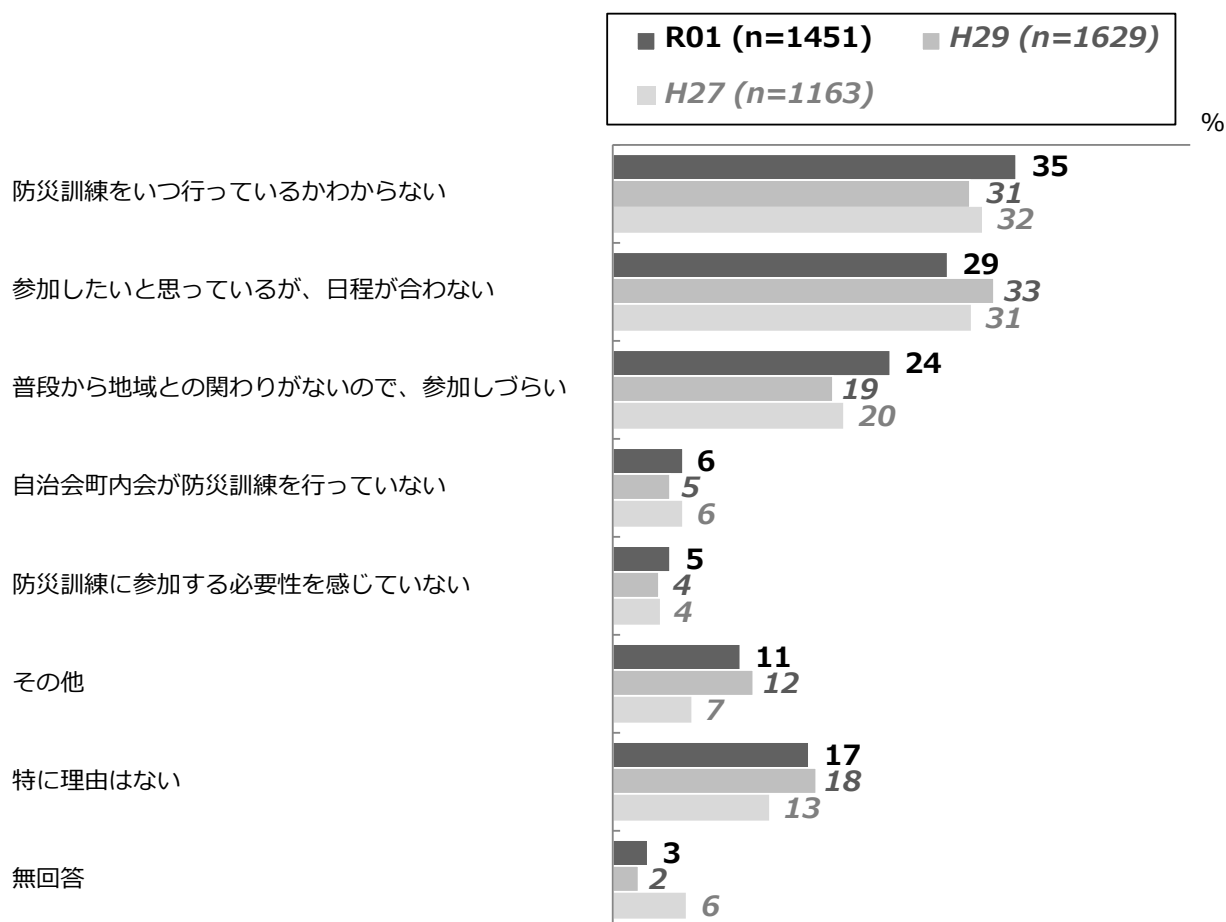
【防災訓練への不参加理由】

- ・地域の防災訓練に参加しない理由は、「防災訓練をいつ行っているかわからない」(35%)が最も多く、「参加したいと思っているが、日程が合わない」(29%)、「普段から地域との関わりがないので、参加しづらい」(24%)がそれに次いでいます。
- ・前回調査と比較すると、増加しているのは「普段から地域との関わりがないので、参加しづらい」(前回比+5ポイント)、次いで、「防災訓練をいつ行っているかわからない」(同+4ポイント)です。一方で、「参加したいと思っているが、日程が合わない」(同-4ポイント)については、減少していますが、前回調査と同様に上位3つの理由の1項目であることに変わりはありません。

※問5で「いいえ」と回答した方のみ

問5-2 地域の防災訓練に参加していないのはなぜですか？(複数回答)

ベース：防災訓練非参加者

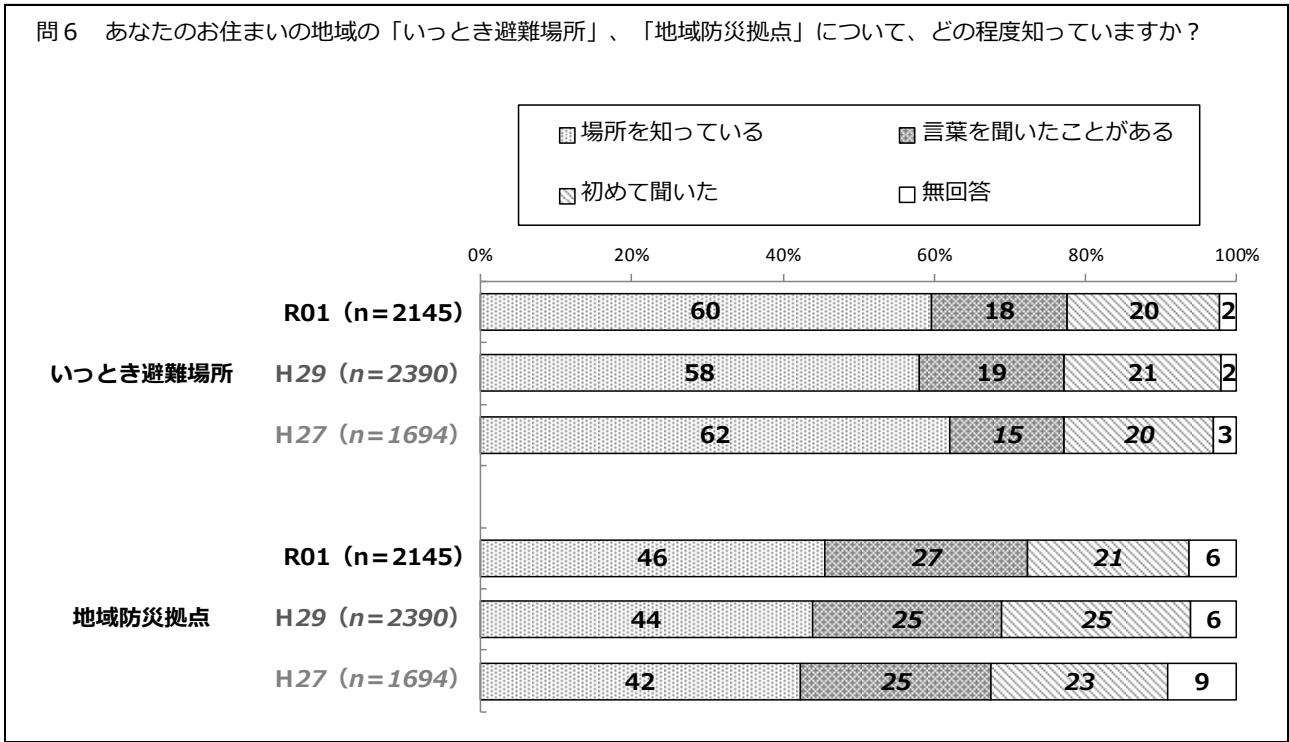


(「その他」について)

- ・「その他」が164票(11%)と多くなっていますが、その内容を見ると、高齢や病気・体調・障害などの理由(56件)、仕事や忙しいなどの理由(13件)が多くなっています。
- ・このほかに、町内会に入っていない、引っ越して間もない、都合が合わずに参加できない、などが上げられています
- ・なお、回答者本人は参加していないが、家族が参加している(11件)という回答も多く、世帯で見ると参加している場合もあることが分かりました。

(5) いっとき避難場所と地域防災拠点の認知

- ・「いっとき避難場所」の「場所を知っている」は60%、「地域防災拠点」の「場所を知っている」は46%でした。ともに平成29年度よりも若干多くなっています。
- ・前回調査と比較すると、地域防災拠点については「初めて聞いた」と回答する割合が4ポイント減少しており、一方で「場所を知っている」、「言葉を聞いたことがある」のポイントはそれぞれ上昇していますが、今後も一層の認知度向上をはかっていく必要があります。



<いっとき避難場所>

地震発生時に、となり近所の安否や被災状況などの情報をいったん集める場所です。場所や仕組みは自治会や町内会で決められています。



【地域の皆様による地域防災拠点運営訓練の様子】



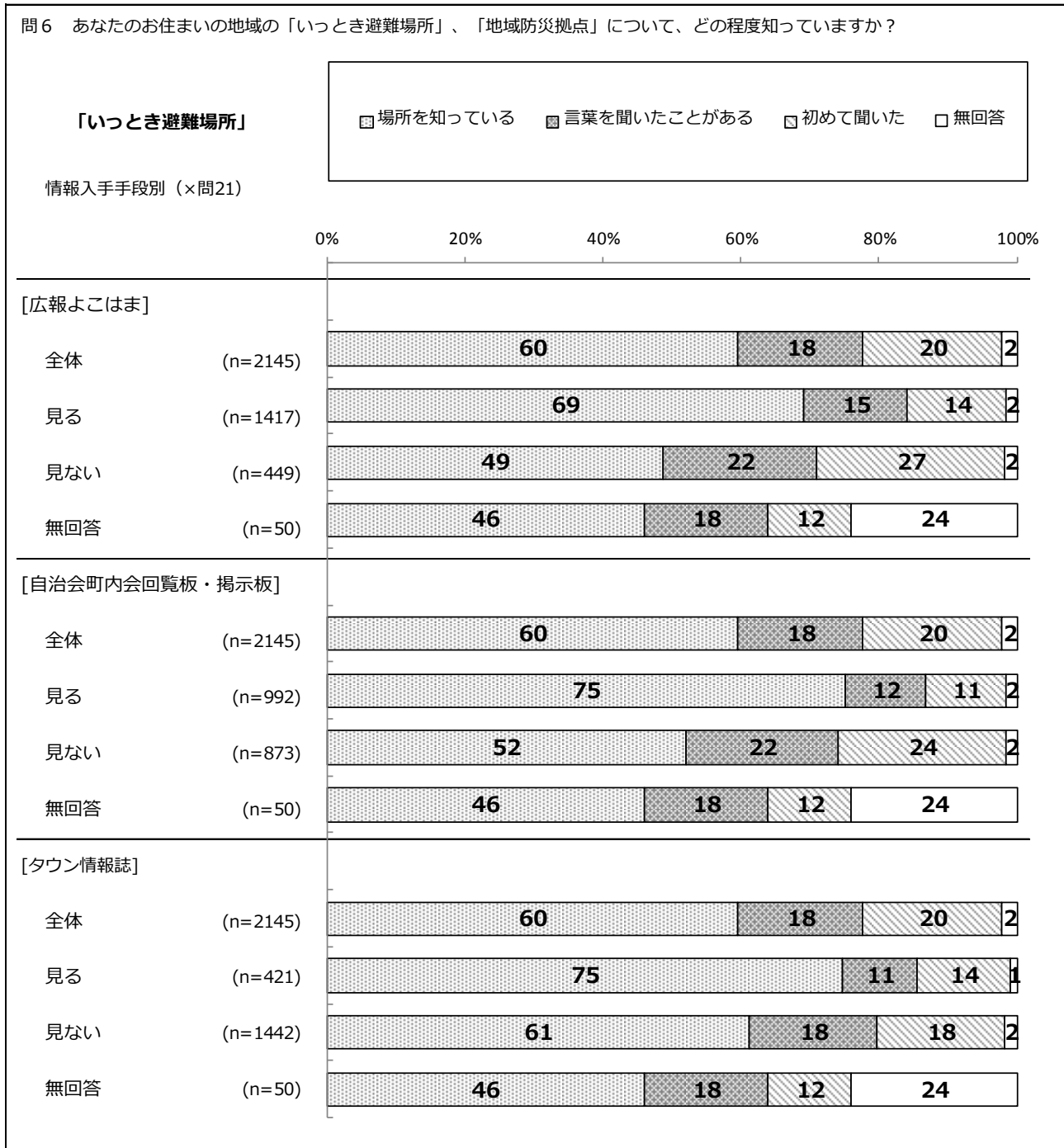
【いっとき避難場所を示す看板】

<地域防災拠点>

ご自宅の倒壊などのため、自宅で生活できない人が避難生活を送ったり、在宅被災生活を送る人が物資や各種情報を入手したりする場所です。

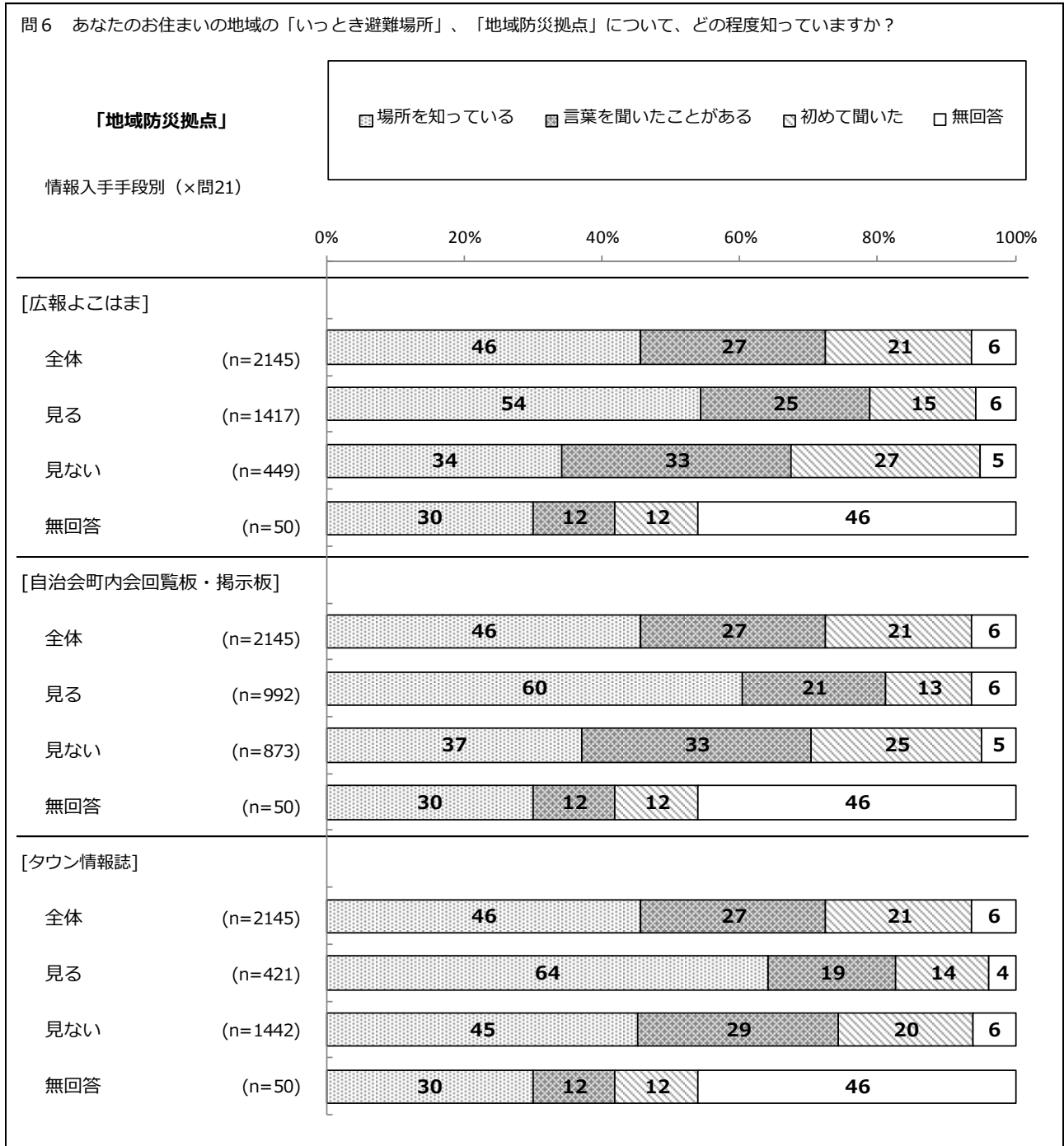
[情報入手手段別 いっとき避難場所の認知状況]

- いっとき避難場所の認知状況を情報の入手手段別にみると、「自治会町内会回覧板・掲示板」と「タウン情報誌」を見ると回答した人は、「いっとき避難場所を知っている」と回答する割合が最も高くなっています。
- 「広報よこはま」や「自治会町内会回覧板・掲示板」を見ないと回答した人は、「いっとき避難場所を初めて聞いた」と回答する人が全体の割合より多くなっています。



[情報入手手段別 地域防災拠点の認知状況]

- ・地域防災拠点の認知状況を情報の入手手段別にみると、「タウン情報誌」を見ると回答した人は、「地域防災拠点を知っている」と回答する割合が最も多くなっています。
- ・「広報よこはま」、「自治会町内会回覧板・掲示板」を見ないと回答した人は、「地域防災拠点を初めて聞いた」と回答する人が全体の割合より多くなっています。



(6) 災害時要援護者への協力

- ・協力できることとして最も多かったのは、「『大丈夫ですか?』などの声かけ」(77%)が最も多く、次いで「避難などの手助け」(59%)となっています。「協力できそうにない」(6%)や「わからない」(8%)という回答は少なくなっています。
- ・前回調査と比較すると、若干ポイントが少なくなっている項目もありますが、前回調査と同様に多くの人が災害時の共助に前向きな考えを持っていることがわかります。

問7 大地震などの災害が起こった時に、あなたご自身やご家族の安全は概ね確保されていると仮定して、あなたの家族以外の避難時に手助けが必要な人(例えば、自力で避難することが困難な高齢者や障害者、乳幼児、病人、妊産婦、日本語が不自由な外国人など)に対して、どのような協力ができそうだと思いますか？(複数回答)

